

令和5年度 音楽科 授業改善推進プラン

大田区立館山さざなみ小学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

全学年

- ・行事等で音楽を発表する場をつくり、全校児童で同じねらいをもち、音楽活動に意欲的に取り組むことができた。
- ・いろいろな楽器に興味をもち、合奏やリズム遊びなど、高さや長さの違う音を友達と合わせて音楽を楽しむことが増えた。
- ・歌唱活動では、音の高さを意識しながら歌えるようになっている。
- ・音楽を形づくっている要素に気付き、その良さを感じとりながら、鑑賞や合奏ができる児童が増えた。(中学年)
- ・新譜から音符やリズムなどの意味を正しく理解する児童が増えた。(高学年)

(2) 課題

全学年

- ・合奏では、一人一人の意欲、技能の差があるので、個に応じた指導が必要である

中学年

- ・少人数の為、合唱や合奏等でのパートの割り振りが少なくなってしまう。児童が様々な楽器の音の重なりを感じることができるような内容や授業形態の工夫が必要である。
- ・リコーダーの学習では、タンキングや息の強さを意識して演奏できるようにしていく。

高学年

- ・歌唱の学習において対話的学習を取り入れ表現を深めていくようにする。
- ・合奏の学習では、全体の様子を見て音の大きさや抑揚をつけて演奏するような意識をもつことが必要である。

2 授業改善のポイント (観点別)

(1) 中学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱活動では他の音を聴くことを通して、丁寧な歌い方やきれいな発音に気付くようにする。 ・リコーダーの学習では、音の出し方に意識させ、易しいリズムや旋律から継続的に指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑賞や合奏・合唱を通して音楽を形づくっている要素に気付かせ、その良さや面白さを確認する。 ・ICTのタブレットを活用し、奏法について学んだり、自分の奏法を見返し、改善したりすることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽活動を通して、自分の見方や感じ方を広げ、言葉や体の動き、絵、音などで伝え合えるようにする。

(2) 高学年

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<ul style="list-style-type: none"> ・歌唱活動では、母音や子音、濁音や鼻濁音などの発音や音の高さに注意して歌えるようにする。 ・歌い方として、譜面の記号やテンポに注目し、曲の雰囲気を感じながら歌唱できるようにする。 ・合奏では、主な旋律、副次的な旋律に着目させたり、曲想の変化に気付かせたりして、それに合った表現ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・合奏や合唱では、ポイントを絞ったり、例示をしたりして工夫しやすいようにする。 ・合奏や合唱の機会を多くもち、何度か繰り返し行う中で、曲の雰囲気や曲想を意識した表現を話し合いの中で考えさせる。 ・ICTのタブレットを活用し、演奏を見返すことで、曲にふさわしい奏法を考えたり、友達の演奏の良さを見つけたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽活動を通して、自分の見方や感じ方を広げたり深めたりすることで、言葉や体の動き、絵、音などで伝え合えるようにする。

